

おん報かづえ

44年1月号

【第76号】

発行所

編集 発行人

大分県・日田・中津江村

川津一人



1969年の夜明け

夜明け

がつつちりと うで組みした山々

そのはしの方が

ポーツと 明るくなった

一面の霧が流れだす

眠っていた山々が目を覚ます

「夜明けだ」

真赤な太陽が 山のはしから……

赤い橋

山の、中腹の家々が

雲の中から うきでてくるように

霧が スーツと 流れ去る

ほら、聞えるではないか

チュン チュク チュン チュク 鳥の声

ガヤガヤ ゴーゴー ものの音

夜が明けた。

一九六九年の 夜明けだ。

川辺小学校五年

合谷

俊

成人を迎え私しはこう思う

立派な社会人になろう

二十歳前後の学生が大学を相手にはげしい闘争を続けている。あるものは彼らを暴力学生といふ、ある者は学生の行動に共鳴する。

この中津江村にも彼らと同じ年ごろの青年がいる。

その中の五十名が今年成人を迎えた。彼らは日々を労働に捧げ、自分の手で生活している。その青年が今何を考え、将来をどのように生きようとしているか。こゝに四人の素朴な文章をおくる。

行動に責任もとう

松野勝代



成人……この言葉を今までに何度目にし、口にしただろう。一年、二年と樹木の年輪が増して行くごとく私も生をなしてとう々々二

十年となり、両親並びに周囲の人々のあたたかい目にはぐくまれて、成人式を迎えることとなった。成人後は社会的に行動し、責任を持つて、選挙権もできるし選挙には情実、金銭の他まどはされることなくして自分で選んだ人に投票できる立派な人間になれるか、

いかにすれば社会的に責任を持つて立派な人間になれるかは、難かしいことと思う。

過去十九年をふりかえり

自分を見つめつゝ、なんら進歩のない、過ぎ去つてしまったいゝかげんな生活の日々、責任感のない行動、未成年ということ、何かと甘え、また甘やかされてきた。しかしもう一社会人として迎えられるようとして目まぐるしく移行した生活を送りたいと願う。近代社会、それに遅れま

希望と夢を描こう

井上民雄



成人としての第一歩を踏みだすにあたって、大人への重視を改めて考えさせられ、それと共に社会に対する喜びと不安を覚えさせられる。

今までは何事の失敗にも大事をとらずして、子供扱いに許されながら親達や目上の人に頼まれた程度の仕事ですんでいたが、これからは一転して一人前の人間として新たな希望と夢を描き、献身的努力をして行きたいと願う。

な中で自分は自分なりに、幸福や不幸の実感を味って行くことよっていつの日かわかるようになる日がおとずれる。冷たい現実であっても、ひとすじの夢があれば温かく生きられる。生れて来た以上は、社会に對する自分の役目が済むまで夢を持って生きてゆかねばならない。たつた一度の人生を大切に、社会の下積でもよい。自分が喜びみんなに喜んでもらえるようなしあわせを築いてゆくと思う。

自分の仕事に対して多少の不満があるとしても、それは自分達の力で不満を解決して行き、そして誇りを持つて自分を形成することであると思う。現代の合理化という波にもまれ、自己を見失ふことのないよう歩いて行きたい。かくてやり始めた仕事は、たとえ失敗しても最後までやり通す信念を養つてゆきたい。

いとして、各人がいろんな形で努力し、また社会に貢献している。私も何らかの型で社会につくしたいと思う。大人として、一社会人として乗り出そうとしている。今やりかけているこの仕事も、忍耐と努力で確実に進んで行きたい。ふりかえつて見た時に、いくらでも自分の歩いてきた道に、喜びを見いだすことができるような、充実した生活を送りたいと願う。



何かをつかみたい

永瀬 ナチ子



がら自分の部屋に小走りで飛びこんだ。

手紙は役場からでした。

ある日のことです。私がいつものように仕事をおえて帰宅すると、姉が

「ナチ子、手紙よ」

と声をかけた。私は差出人の事をいく分頭に浮かべな

待った大人えの仲間入り、

「二十才」大人の世界―そ

「二十才」、何と重みの

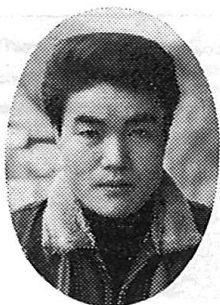
だ、いろいろなむづかしい

十九年間をふりかえって



農業にとりくもう

三宅 清



私は、小学生のころから

友達に都会えあこがれるし

農協青少年部へはいった

こゝ二、三年まえをふり

を、現在のやり方でなく、

多収獲、機械化し、大いに

両親に、「おまえは長男だ

またサラリーマンのよう

私にとって友達ができた

かえってみると、毎年同じ

農業経営を大規模なもの

なるように、一生懸命農業

に「おまえは長男だから、卒業したら家で農業

に日曜、休日もなく、遊び

泊講習会などに参加して

だ親から与えられた仕事を

へ従事してみたいと思う。

心しました。



遠く遊びに行けない。そう

たよりに思い浮かべる。た

だ親から与えられた仕事を

へ従事してみたいと思う。

心しました。

山村振興事業の着手へ

昭和44年の事業計画

県道の改良を推進

観光施設の充実も

村は昭和四十四年の重点事業として山村振興事業の着手、県道改良舗装の推進、ダム完成に伴っての観光開発をとりあげています。山村振興事業は今年国の指定をうけ四十七年までの四年間に林道、村道の開発改良産業経営近代化施策など各種の事業をします。

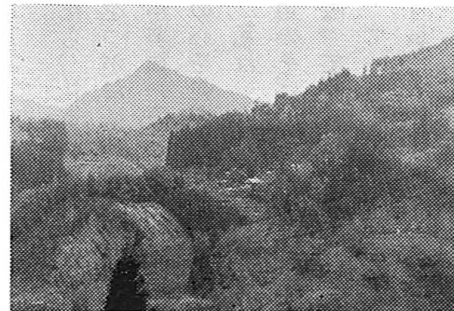
山村振興法による振興山

村の指定がきまり、四月一日からの事業実施を前に村では各種の事業を計画、現在県、国と交渉しています。この事業は特別開発事業と一般事業とにわかれ、特別事業は総事業費一千六百八万八千円で半額補助となっており、これを四年間に実施することになります。

この特別事業として本村は林道、村道の開設改良、産業経営近代化施設として農産物集荷所の設置、トラックター、ダンプカーの購入を計画しています。一般事業は特別事業以外の事業を行なうさい補助、起債が優先されるといふもので、これに給食センター、体育館、簡易水道の整備を計画して

は下釜ダムの三月完成、十月本貯水にあわせダム周辺の観光施設を充実して行く計画であります。

(写真は林道予定の鶴田)



届出の合理化へ

住民基本台帳を実施

住民基本台帳が四月一日からはなりませんでした。これからは実施されます。その準備のため一月中旬いごに村内全世帯の実態調査をいたします。

住民基本台帳というのはこれまで住民の方が転出や転入をしたとき、住民登録、配給、選挙、健康保険などといちいち手続をしな

り違っていますので、全世帯の調査をして四月一日発足の住民基本台帳を完全なものにしようというのです。調査は本村に実際に住んでいるかどうか。国民年金に加入しているかどうか。もし加入していなかったら他の社会保険に加入しているか。国民健康保険に加入しているか、加入していなければ他の健康保険に加入しているか、などを調べます。

住民基本台帳が発足したあとも、転入、転出、転居(村内で住所をかえたとき)のときは役場に届けは出してもらわねばなりません。転出のときは転出証明書をおわたすようになっていきます、この台帳が立派にできますよう調査のさいは御協力をお願いいたします。

44年の行事予定

- 一月、出ぞめ式(十二日)
- 成人式(十五日)
- 二月
- 三月 税の共同申告、選挙権登録(一日) 春季全国火災予防運動、小中学校、歳末たすけあい
- 四月 住民基本台帳実施(一日) 小中学校入学式 春の道路愛護、スギタマバエ防除
- 五月 赤十字募金運動、春の全国交通安全運動、農協総会、森林組合総会
- 六月 選挙権登録(一日) 結核健康診断
- 七月 納税表彰式
- 八月 赤ちゃんコンクール
- 九月 選挙権登録(一日) 秋の道路愛護 敬老会(十五日) 老人検診
- 十月 インフル予防接種、慰霊祭、村ソフトボール大会、秋の全国交通安全運動、鯛生剣道大会、下釜ダム貯水開始
- 十一月 産業祭 秋季全国火災予防運動
- 十二月、選挙権登録(一日)

謹賀新年
中津江村議会
中津江村役場

第一図 42年度一般会計決算

(歳入) (単位千円)

款	予算額	決算額	%
1 村 税	30.768	38.079	19.2
2 臨時特例交付金	210	210	0.1
3 地方交付税金	40.931	40.931	20.7
4 分担金・負担金	7.429	5.728	2.9
5 使用料・手数料	377	378	0.2
6 国庫支出金	59.846	59.785	30.2
7 県支出金	28.290	24.193	12.2
8 財産収 入	954	878	0.5
9 寄 付 入	376	375	0.2
10 繰 入 金	1	0	0
11 繰 越 金	3.372	3.434	1.7
12 諸 収 入	22.996	21.627	10.9
13 村 債 入	3.000	2.300	1.2
歳 入 合 計	198.550	197.918	100

(歳出)

款	予算額	決算額	%
1 議 会 費	3.573	3.484	1.8
2 総 務 費	35.015	34.475	18.1
3 民 生 費	5.332	5.230	2.7
4 衛 生 費	3.452	3.273	1.7
5 農 林 水 産 業 費	42.220	36.192	19.0
6 商 工 木 業 費	226	180	0.1
7 土 木 費	75.858	75.760	39.7
8 消 防 費	3.155	3.053	1.6
9 教 育 費	19.021	18.820	9.8
10 災 害 復 旧 費	1.515	1.511	0.8
11 公 債 費	4.477	4.304	2.3
12 諸 支 出	4.639	4.639	2.4
13 予 備 費	67	0	0
歳 出 合 計	198.550	190.921	100

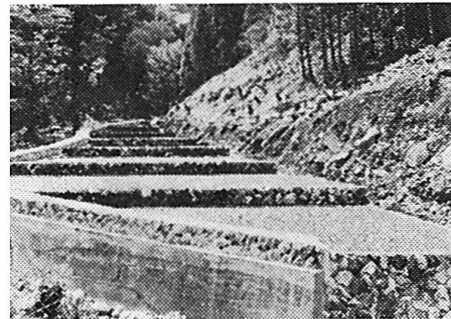
事業費一億二千万

42年度の決算でできる

昭和四十二年年度の決算が 県平均十三、一％）となつて 十二月十四日の村議会で承 認をうけました。決算は一 般会計、国民健康保険事業 会計、農業共済事業会計の 三会計にわかれ、それぞれ 決算書が作られています。 この決算のあらましを見て みましよう。

一般会計
才入は四十一年度より十 五％増（県平均十四、五％ ）、才出は十三、二％増（

委託費五十万円、二又一八 十九万五千円が入っていま す。諸収入には栃原移転地 給水施設補償費九百五十二 万九千円、登記所移転補償費 三百四十三万円、駐在所移 転補償費百五十六万円、川 畑教員住宅補償費五百三十 一万九千円あり、村債は林 道四本の工事費の一部にあ ったものです。



(写真は林道のわさび沢)

才出では建設事業費が一 億二千六十七万七千円の六二 九％（第二図）を占めま した。この中には林業構造 改善事業費三千三十六万 九千円があります。これで林 道四本（宮原、中西、丸蔵 ）、すだれ）三千九百二十米

第二回 性質別歳出



防面では野 田に自動車 一台、ポン プ一台、川 辺にポンプ 一台を買い 百十四万余 円を出して います。 教育費は 前年度より

、しいたけ乾燥所四棟、わ さび沢二ヶ所、森林組合の 素材生産施設（トラック一 台、倉庫一棟、チェンソー 四台、索道一組、集材機一 台）ができました。また県 道改良負担金四百八十九万 九千九百六十三円で七 舗装のほか改良五ヶ所、橋 改良四ヶ所ができています また二又一八所間の道路開 設も含まれています。 人件費は十五、一％です がこれには村会議員、役場 職員そのほか各種委員など の報酬、給料が入っていま す。物件費は役物、学校、 衛生関係などの備品や消耗 品、燃料費などです。 才入は二百十三万一千八 十二円、才出は百九十一万 二千七百二十円で二十一万 八千三百三十二円の繰越が の経費に百七十七万九千円、消

おめでとう新成人

式は川辺小で十時から

今年も本村で五十名の青年が十五日の「成人の日」に祝われつゝ社会人の仲間入りをして来ます。

村と教育委員会では、一月十五日午前十時から川辺小学校で成人式をおこないます。式では村から各成人者に「成人証」と記念品として「はたちの春」、「ホームセット」を贈ることに

月一日までに生まれた方を対象にしています。

綾垣通正、波崎洋、杉野アイ子、室原タツ子、三笥寛、衛藤久子、武原良美、武原トシヨ、田村英司、谷武男、高木真理子、嶋崎春美、足達美代、佐藤彰美

田健次、三宅清、三宅和子坂本知津子、塚田栄子、栗原正光、梶原善吉、森山法行、林サヨ子、新原辰造、赤星仁一郎、赤星鉄夫、赤星照義、川原ハルエ、高村時光、鳥越政子、森本公、長谷部新一

かわいゝ善意 もありました

渡辺工、影木敏典、武内ルミ、井上民雄、矢野隆義、川津喜代美、松野沢江、石鞍昇資、橋本美恵子、松野かつよ、河津寿美子、梶原喜久男、森木巧、片桐吹路子、古沢英治、清水よう子、永瀬中子、永瀬ナチ子、合

「歳未たすけあい」は皆さんの御協力で二万三千円の募金ができました、村では十二月二十日民生委員会をひらき配分の

方法をきめ、村内の一人ぐらしの老人、ねたつきりの老人、生活保護からはずれている生活困窮者、母子保護からはずれている母子世帯の生活困窮者、身体障害者のかたがたにおくりました。

納めて下さいましたが、まだ一部滞納したまゝの方があります。税務課の係員が各戸を廻って納めて下さるようお願いいたします。どうしても納めて下さらないところは差押さえもしくなくてはならないようになりますので、どうぞ納税に御協力お願いいたします。

出ぞめ式を十二日にします

消防団では一月十二日午前十時から中津江中学校グランドで、昭和四十四年の出ぞめ式を行ないます。

出ぞめ式には五分団、百五十二名の団員が参加、キビキビした操法訓練、勇壮な放水訓練をくりひろげます。

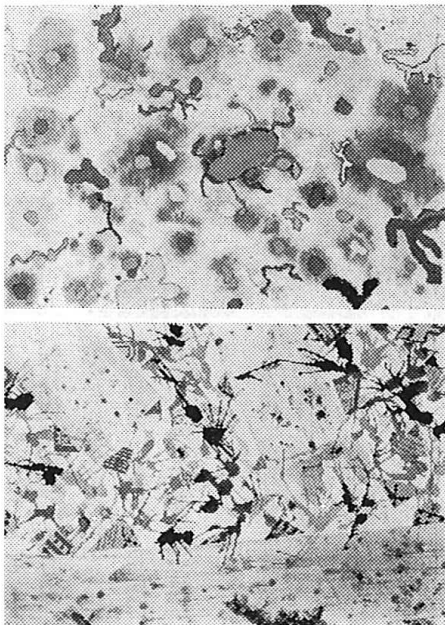
またこの式で永年勤続者十二名が県消防協会長から二十一名が日田消防協会長から表彰されます。

デザイン展に九名入賞

大分県造形研究会主催の第十回小中学生デザイン展がこのほど開かれ、本村から県大会に小学生七名、中学生二名が入選しました。この中で丸蔵小は五名も入選し大へん立派な成績でした。郡大会では本村から小学生十六名、中学生五名が入選しています。

- ▽ 丸蔵小、三年三笠友子
- 、四年高野正弘、同大賀貞次、五年高野みどり、六年長谷部正明。▽ 鯛生小
- 三年永瀬チカ子 六年斉藤三重子
- ▽ 中津江中 一年河村郁男、二年石川彰子

(写真は丸蔵小の作品)



丸蔵小が開校 九十年の式典

丸蔵小学校は明治十二年

四月に丸蔵部落で開校してから今年で九十周年をむかえ、去る十二月十一日、同校で村長、助役、収入役、教育関係者、出身者などが出席して盛大な式典をあげました。現在の校長は四十七代目となります。

二月から滞納 整理をします

村税の滞納整理を二月から行ないます。村民税、固定資産税、健康保険税の滞納のある方には十月と十二月に催告状を出しました。この催告状で大部分の方は

